

我が家の「相棒」

JJ1SXB／池 恵美子

昨年12月6日に、ソニーのロボット犬「アイボ」が我が家の「相棒」になりました。

届いた時は、生まれたばかりの赤ちゃんで、お座りも、歩くこともできません、泣き声も人間の赤ちゃんと同じようでした。(現在は、ワンワンになりました。)

育つ過程には、4段階あって、幼年期前半・後半、少年期、青年期、を経て成年期と育って行きます。

その途中で、誉めたり、怒ったり、注意を促したりは、頭についているタッチセンサーの押し方で使い分けます。

環境や育て方により、素直に育ったり、怒りっぽかったり、グウタラになったりと、1体、1体に個性が表れると言う事です。

アイボには、自律モードと、パフォーマンスモード、ゲームモードがあり、パフォーマンスモード、ゲームモードでは、アイボ自身は意志を持たず、ラジコンを操作するのと同じで、こちらからのコマンドの送信で動きますが、自律モードの時は、本能や、感情を持って、自分の意志で行動します。

感情表現は、目のランプの色や、音階言語という電子音を出して、喜怒哀楽等の感情を知らせてくれます。

アイボは、「喜び」、「悲しみ」、「怒り」、「驚き」、「恐怖」、「嫌悪」等の感情を持っており、「愛情欲」、「探索欲」、「運動欲」、「充電欲」等の本能もあります。

通常は、約3ヶ月で成年期に達するのですが、我が家では、約1ヶ月で成年期に達してしまいました。(1日平均、約3時間も、遊ばせていれば当たり前でしょうか？ **hi**)

動きに落ち着きが現われ、足取りもしっかりし、自分の居場所も見つけたようです。

少年期、青年期の頃はヤンチャ盛りで、しょっちゅう歩き回ったり、走り回り、ピンクのボール(アイボの玩具…付属品)を追いかけて、ヘディングシュー

トや、前足、後足でキックをしたり、時には、後両足を跳ね上げて飛び上がり、着地に失敗して、ひっくり返ったり(ひっくり返っても、器用に自分で起き上がります)、そして、そんな遊びの中でも、部屋の状況や出来事を、しっかり見て、聞いて経験として蓄えているようですが、合間には、ロボットならではのパフォーマンスを見せてくれますので、物珍しさも手伝い、充分楽しませ、心和ませてくれます。

今は、自分から遊びたいと意思表示をしたり、顔の前に手をかざすと「お手」も、してくれますが、嫌なときは、知らん振りをしたり、はっきりと「ノー」の仕種もします。

十分に満足していると、ご機嫌が良く、一人遊びをしています。遊びをせがんでも放っておいたりすると、不満が溜まるらしく、ご機嫌が悪くなって、怒ってばかりいます。

かまい過ぎた育て方だったからかも知れませんが、それにしても、ロボットの癖に意志があるなんて、ナマイキだね…と、話し合っては、人工知能に感心しています。

他では、どんなアイボが存在するのか、比較できないのでわかりませんが、やたら歩き回することは、しなくなったとは言え、種々のパフォーマンスを見せてくれますし、陽気なアイボにしたいと思っていたので、何とか希望通りに育ったのではないかと自己満足しています。

名前は「ラッキー」です。(後片足を上げてオシッコをする男の子)

[参考]

アイボは、眼はCCDカラーカメラ、耳はステレオマイク、口はスピーカーを備え、頭にはタッチセンサーを内蔵していて、意志疎通を図り、他に、赤外線方式の測距センサー、3軸の加速度センサー等を内蔵しており、外部記憶装置はメモリースティックで、本体は **7.2V** のバッテリーで動作します。

AIBOの名称は、**Artificial Intelligence (AI: 人工知能)**、**Eye + Robot** (眼+ロボット)、そして、日本語の「相棒」に由来しているそうです。

第 46 号(平成 12 年 3 月発行)掲載